

社団法人 福島県臨床衛生検査技師会 会報

Echo

NO. 130 平成 18 年 3 月 25 日

発行：(社) 福島県臨床衛生検査技師会

〒960-1247 福島市光が丘 1 番地

発行責任者：比佐 哲夫

編集委員長 金子 隆子

福島県立医科大学附属病院検査部

TEL. 024-548-4290

第 38 回福島医学検査学会 演題 30 題集まる**担当：県南支部****場所：郡山市ビックパレット****日時：平成 18 年 5 月 27 日 (土)・28 日 (日)****学会長 柳沼 滋**

例年になく厳しい冬も終わり、日一日と春に向かう今日この頃、会員の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

このたび、第 38 回福島医学検査学会ならびに平成 18 年度 (社) 福島県臨床衛生検査技師会総会を郡山市で開催するにあたりご挨拶申し上げます。

平成 18 年度診療報酬改定に伴い臨床検査現場へのいろいろな締め付けも多くなると思われますが、臨床検査技師として私たちは迅速に正確に精度のよいデータを提供できるよう努力していかなければなりません。路は険しくとも会員の皆様と共に助け合い、努力し合って苦境を乗り越えていきましょう。



さて、第 38 回福島医学検査学会は郡山市の福島県産業交流館「ビックパレットふくしま」を会場に平成 18 年 5 月 27 日 (土)・28 日 (日) の両日開催いたします。公開講演には、天文ジャーナリストの大野裕明先生による「天文現象、地球表面見て歩き」「勇壮なオーロラの出現に太陽の凄さを見た!」を、教育講演講師の太田綜

合病院睡眠センター長、高崎雄司先生には、「睡眠時無呼吸症候群と生活習慣病との関わりについて」のご講演を頂きます。

また、会員皆様の研鑽の成果を発表する一般演題発表会場は 4 会場を使用し、演題数は 30 題と皆様のご協力に感謝いたすと共に実行委員一同、気を引き締めて学会運営に取り組んでいきます。(多数の演題申し込みありがとうございました)

情報交換会は、郡山ビューホテルを用意してあります、日頃のお付き合い、新たな仲間との出会いや繋がり、学会発表前の前日ですが発表者は緊張している気持ちをほぐし、参加されている方々とお話をされゆっくりとくつろいでください。余興には、歌って踊れる臨床検査技師を目指すヨサコイソーランのチーム、郡山よさこい「福恋人」が公演を引き受けてくれています。大いに楽しんでください。

多くの会員の皆様に参加されますよう県南支部一同、心よりお待ちしております。

公開講演 講師紹介**大野裕明先生**

(おおのひろあき)

★1948 年 6 月 19 日福

島市生まれ

★福島天文同好会会長

★白河天体観測所(「星なったチロ」の天文台)

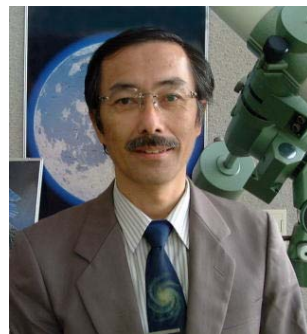
写真観測 広報担当官

☆観測対象

彗星・皆既日食・オーロラ・隕石や地

球衝突可能性小惑星の追跡観測・光害と地球環境保全対策

★現在、天文ジャーナリストとして講演活動やマスコミに登場中!また、奥様が義経からみの「音羽の椿」の CD を 2005 年 3 月発売したのでマネージャーも兼ね東奔西走していらっやいます。



各支部だより

県北支部

「県北支部生理検査研究班の班長として」

大原綜合病院 幕田倫子

平成16年度より県北支部生理検査研究班の班長をさせて頂き、超音波検査に関する研修会を副班長とともに企画開催してきました。

日頃から、支部研修会であるにもかかわらず役員以外は施設間の会話がほとんどなく、講師の話を聴いて帰るだけの受身の研修会が多いように感じていました。

当研究班ではそれを解消すべく、小さな会だからこそ参加者同士のコミュニケーションがとれて消化不良の少ない会であり、参加者が受身に終わらないよう努めました。また、毎回、持ち寄りで症例検討会も行いました。

心臓超音波検査に関しては、支部研修会をきっかけに福島県立医科大学第一内科の先生のご好意と検査部の方々のご協力で懇話会が立ちあがり、平成18年1月より月1回のペースで症例検討会を開催しています。

このような研修会を重ねるごとに施設間で自然に情報交換が出来るようになり、確実に横のつながりが実現しつつあります。このような小規模な研修会だからこそ、参加者が小さな勇気を持ってお互いに我が身をさらけ出して、日常検査の小さな疑問を解消したり、長年続けている手技や解釈が間違っていないかを確認し合うべきだと考えています。

特に超音波検査は、検者が直接診断する検査なので、技師だからといって見落としや誤診は許されません。小さな所見を見落とさないためには、技術の向上はもちろん医師と同様に疾患の理解が必要です。そのためには、



施設によっては症例が偏り、実際に経験することが困難な場合もあり、症例検討会への積極的な参加が望ましいと思われれます。症例検討会では生理検査のみならず、他の画像診断や病理診断等も関わり、厚みのある知識が得られ非常に有意義です。

今後も支部研修会だからこそ可能な、細かい部分の詰めをしていきたいと考えています。是非会員の皆様は奮ってご参加くださいますようお願いいたします。

会津支部

「17年度活動を振り返って」

福島県立会津綜合病院

阿部浩子

「会津」というとみなさんは、山の向こうに在って遠いところというイメージをお持ちではないでしょうか。確かにそうですが、気候のよい季節ですと、郡山から会津若松まで1時間程度です。ぜひ少し足を伸ばして、会津の歴史やおいしいものに触れてみてください。

しかし、冬になるとさすがに違います。天候や交通状況によっては、普段の何倍もの時間がかかることもあります。そういう事情もあって会津支部での研修会の開催は秋に集中しています。夏休みが終わって“雪が降る前”が合言葉のようになっていきます。



(会津若松市のホームページから)

今年度はこれまでに7回の研修会が行われました。2日連続して開催された時もあったのですが、各方部から多くの方に参加していただきました。

毎回、各研究班の班長さん、副班長さんを中心として研修会を企画、運営していただき、私がのんびりしている間に着々と決まっているという次第で、各研究班の方々には本当に感謝しています。

また今年度は、輸血検査研究班の方達のお骨折りで、「輸血検査法の再検討」という題で、日本輸血学会のガイドライン作成委員である佐々木正照先生にご講演いただくことができました。

輸血検査は専門的な分野でありながら検査技師全員が携わるものでもあり、お話を伺えたことは貴重な経験でした。

会津支部は地域の広さの割には、人数はそう多くありません。そのためかアットホームな雰囲気があるように思います。どうぞ何か興味のある研修会がありましたら、それを機会に会津支部をのぞきに來てください。いつでも大歓迎です。

いわき支部

学術講演会「知っておきたい目の病気」

(財) 福島県保健衛生協会いわき地区センター

猪狩 忍

いわき支部の第一回学術講演会の担当を任された時は初めての事なので本当に不安でした。しかし、役員の方のご指導ご協力をいただきながら、講演会の企画に携われたことは、私にとって大変貴重な経験になりました。

目に関する話題は、最近マスメディアを通していろいろな情報が入り、病気の怖さを何となく感じてはいるものの、眼科医の話を直接聞く機会はなかなかありませんし、コンタクトレンズ利用者の増加や、パソコンの普及に伴いVDT作業に携わる機会が増えている昨今の目に過酷な環境を考えると、とてもタイムリーなテーマだったと思います。講演をお願いした波多野 博先生は、



とても気さくなお人柄で、あれもこれもと盛沢山の内容をお願いしたにも関わらず、快く講演をお引き受け下さいました。当日の講演は、基本

的な目の構造の説明から始まり、私たちに一番身近な、近視・乱視・遠視・老視についての話、またコンタクトレンズ使用による目の障害、失明の危険性のある目の病気についてまで、先生の豊富な経験談を交えながら、わかりやすく丁寧にお話いただきました。特にコンタクトレンズを使用されている方にとっては、ちょっと怖い話だったかもしれませんが、「人生の節目を過ぎたらメガネが良いですよ」とユーモアたっぷりにお話くださった先生の言葉が印象的でした。また、質疑応答では、眼底検査時の注意点や眼底写真の判読に関する質問が有りました。仕事の上でも日常生活面でも役に立つ話題満載で、講演時間が足りないほどでした。個人的には、自分の近未来に備え高齢期に多い目の病気についての話も機会があればぜひお聞きしたいなと思いました。

相双支部

「平成17年度相双支部学術部活動について」

相双支部学術部長

鹿島厚生病院

加藤裕一

厳冬の候、会員の皆様におかれましては新たな心で新春をお迎えになられ益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

ます。相双支部では例年各種学術活動を行っております。現時点での活動内容について紹介させていただきます。平成17年6月23日(木)に第1回学術研究班班長会議を開催し、平成17年度の事業計画についてと相双支部生化学分野精度管理について討議いたしました。

相双支部生化学分野精度管理は平成17年7月21日(木)に私が相双支部の21施設のうちの精度管理に参加される15施設に市販のコントロール血清2種(Normal, Abnormal)を配布し、翌日(7月22日(金))に測定していただきました。

平成17年11月24日(木)には、平成17年度相双支部生化学分野精度管理結果報告化学分析検査研究班時開した。度同



部生化学分野精度管理結果報告化学分析検査研究班時開した。度同

器使用の施設にも参加していただき、意味のある結果内容と今後につながる報告会となりました。生化学分析検査研究班研修会の方は、今更ながらと思われるかもしれませんが『基準値共有化について』を講師の先生に詳しくご講演していただきました。

平成18年1月27日(金)には、形態検査部門研究班研修会を開催いたします。内容は、血液学の基礎「血液像からみる疾病」と題しご講演いただく予定となっております。大盛況の予感がいたします。

その後の研修会は、2月24日に生理機能検査研修会を予定しており内容は、「頸動脈エコーについて～まずは基礎から～」と題しご講演いただき、3月17日には一般検査研修会を予定しており内容は、「糖尿病の尿沈渣の実際」と題しご講演いただく予定となっております。

ところで、学術部活動から話が逸れますが、今年も相双支部技師会新年会を1月26日(木)に開催いたします。今年も昨年以上に大勢の会員の参加を期待し、楽しい談義、厳しい談義、チョット嬉しいカラオケ、かなりの盛り上がりで楽しいビンゴゲーム、そして昨年以上に豪華な料理を期待しております。今年も宜しく申し上げます。

日本臨床検査技師連盟

加入者入金報告

作間靖子 出羽より子 角田博 菊池良子 松田美津子 秋山奈美 遠山ゆり子 高根和子 峰徹次 志賀真砂子 佐藤幸子 菅野和典 藤野高志 井上馨 本田信治 高橋清明 金子隆子 小針美弥子 佐藤崇 前田順子 安藤知恵 松野井英子 相沢哲郎 森佐知子 佐藤祐二 峯本千恵子 上野暢代 (平成18年2月締め)

「第46回東北医学検査学会の

実務委員として参加して」

福島県立医科大学附属病院検査部

田中 京子

第46回東北医学検査学会が平成17年10月15日(土)から16日(日)開催されました。

この時期には珍しい汗ばむ程の良い天候に恵まれ、また交通の便も良く多くの方々の参加がありました。

メインテーマ「変化への挑戦」、サブテーマ「一さらなる医療貢献を目指して」で医療制度改革の波に真っ向から挑む意気込みを感じられる熱のこもったディスカッションが各会場で繰り広げられました。

教育講演は福島県立医科大学医学部教授 吉田 浩先生の「正しい検査値を目指して」で日常遭遇する疑問やデータの乖離の際には基礎に立ち返ることの大切さを学び、公開講演の福島大学人間発達文化学類教授 白石豊先生の「やわらかな心」では、長所を見つけそれを伸ばすには何が大切かを学び、部門ごとのレクチャーでは今が旬のテーマが数多くありました。椅子が足りなくなり、急遽隣の会場から椅子を運び込む会場もありました。

私は実務委員として参加しました。打ち合わせと当日だけでしたが会場係としては非常にスムーズに運営されていたという感想です。

少人数で打ち合わせの時間も短く、マニュアルを渡されてはいましたが未消化という多少の不安を抱えて学会当日を迎えました。

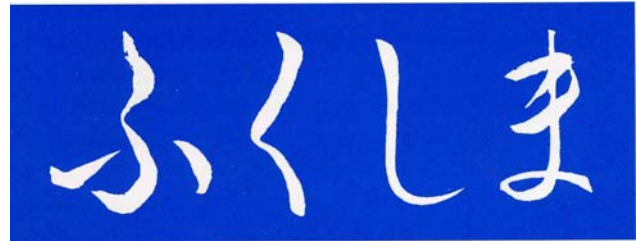


しかし、若い？実行委員がてきばきと指示を出してくれたり、入念な準備のおかげで無事に役目を果たすことができました。ただ、学会専用駐車場がなく、近くの駐車場が満車で大変だったとか、受付が一時混雑

したとか、反省すべき点もあったと思います。反省点を踏まえ次回につなげられればと思います。

実行委員の皆様ご苦労様でした。

会誌「ふくしま」論文募集



昨今、会員の皆様から、会誌「ふくしま」に投稿したいが、投稿規定はどうなっているのですか、との問い合わせが寄せられます。定款には定められておりますが、現状にそぐわないところも多々ございます。

3月19日(日)福島県立医科大学附属病院で行なわれました常務委員会で、暫定的に「医学検査」の投稿規定に準ずることにしようということになりました。勿論、この議案は、5月の総会に提出されます。ただ、医学検査はB5版ですが、会誌「ふくしま」はA4版です。そのところを考慮し、投稿をお願い致します。

また、会員の皆様でご意見、ご希望がございましたら、事務局(医大、平木)までご連絡下さい。(広報・金子)

法人と連盟は車の両輪です

日本臨床検査技師連盟連絡責任者会議が平成18年1月28日(土)、大森の検査技師会館にて開催されました。

そこで、小崎会長が挨拶された言葉が、「法人と連盟は車の両輪です」

社団法人ではできないもの、主義主張を認めてもらう為には連盟でやるしかない。代議士の方々との折衝には連盟が必要だ、連盟で動かなければと力説されました。平成18年度の連盟の行動目標を次のとおりです。

- 1) 当会からも臨床検査技師を国会議員として政界に出す為の準備に入りたい。
- 2) 世界医師会総会のヘルシンキ宣言にも見られるように医の倫理に基づく臨床検査は、有資格者の手で行なわれなくてはならず、無資格者が臨床検査を行なえないよう業務制限を今後も推進する。
- 3) 当政治連盟は、政権与党を支持し、立法、行政と一体となり国民の健康・福祉・医療の質の向上のため努力するとともに地位の向上を図る
- 4) 以下の6項目の今後の検討と具体的施策の展開
①臨床検査技師の名称掲載 ②衛生検査所の規定と分離し法改正 ③検体検査の業務制限 ④生理検査の省令掲載検討 ⑤養成機関の大学への移行 ⑥臨床検査業務の無資格制限 (福島県連絡責任者 金子隆子)

編集後記 桜の蕾も膨らみ、真新しいユニホーム姿が、職場を明るくする4月がそこまできています。保険改定が発表になり、具体策が指示されている施設もあることでしょう。我々の職名の頭には「臨床」がついている事を大切に、チーム医療の一翼を担う検査技師でありたい。(KT)